

地域イベントで活躍するエド・アド



ゴールデンウィーク中の5月4日、流山グリーンフェスティバルは、流山おおたかの森駅南口都市市場で開催された。天候に恵まれ、来場者はおよそ3万人だった。このイベントでは、江戸川大学の学生組織である架空広告会社エド・アドが裏方として活躍していた。(文：金芳辰樹 撮影：市島啓太郎・照井海人・南波秀亮・金芳辰樹・溝辺奈菜・堀越奏美)

新入社員の初仕事

準備はすでに5日前には始まっていた。4月29日に、エド・アドの学生社員たちはステッパートと呼ばれる、階段を利用した巨大な絵を作成した。

駅から広場に降りる階段の一段一段の垂直面に細く切った絵を貼り付ける。階段下から見上げると、流山市の象徴であるおおたかを気球に乗った少年が追いかける絵が階段をキャンパス

の一段一段の垂直面に細く切った絵を貼り付ける。階段下から見上げると、流山市の象徴であるおおたかを気球に乗った少年が追いかける絵が階段をキャンパス

イベントMCもまかせて！

早朝、会場の一角に設置された緑のテントにイベントの司会進行を任されるM

として浮かび上がる。

この階段の絵は、5月4

日におこなわれた間違い探しイベントにも関わった。会場で配られた絵とステッパートの違いをみつ

けると花がもらえる。子供たちが開始前から受付に列をつくっていた。

この日集まった社員たちは1年生がほとんど。3年生で社長の古沢美穂がてきぱきと率いてく。日差しが

Cと裏方に回るエド・アド社員たちが準備を始めていた。進行が流れを確認するため、台本とにらめっこしている。

本番は、3年生小林稔征



清水千鶴と横沢菜美にとっても晴れ舞台となる。

トだと迷子もでてる。場内放送で保護者への呼びかけを繰り返すのも、エド・アドMCの役目だ。保護者がくるまでのあいだ、社員たちは笑顔とこまやかな対応で迷子の不安を和らげていた。

午後1時からのドッグファッションショーは今回のフェスティバルのメインイベント。3年生の学生MC清水千鶴と横沢菜美にとっても晴れ舞台となる。



学生記者募集！

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう！

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先：TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 広報課